

如蓮華在水

今年も敬老会を、コロナの影響で中止をしました。

婦人会を軸に、寺内一丸となって開催する敬老会は、松風寺の看板行事の一つです。楽しみにされる方も多いのですが、今の時節は、飲食を伴う行事は自粛です。

代わりに、今年も薫化会と婦人会が 207 名の長寿会対象者にプレゼントを用意してくれ、そこに私もメッセージカードを添えました。去年のカードを大事にしてくださる話を聞きますので、プレッシャーで何を書こうか迷いました。法華經の「如蓮華在水」のお経文をテーマに悪筆を揮ったところ、「何て読むの？」と聞かれて申し訳なさで一杯です。この「蓮華の、水に在るが如し」と訓じる御文は、煩惱の盛んな人々の中で、気高い菩薩行に励む法華經の行者を、泥田の中から美しい花を咲かせる蓮華に譬えたお言葉です。コロナで大変な中にも、ご信心の大輪が咲きますことを願いました。

ところで、10 月 13 日はお祖師さまの祥月ご命日で、宗門の役員はこの日に任期を交替します。私も弘通局長の大任を無事に勤めて任期を満了。ただし、振り返ると 3 か年の任期の 2 年間はコロナで動けず、当初に予定していたご奉公は概ね出来ずに過ぎました。

ご弘通の機運を高める鍵は人が動いて熱意を伝えることで、これは会議や書類の伝達だけではカバーできません。そこで当初から動ける人を集め、動く企画を練ったのですが、感染防止の要は行動制限ですので困りました。国内の弘通の企画は次々に中止になり、出向予定はほぼキャンセルです。海外教区も渡航ができないので、人的な支援は皆無でした。コロナで通常のご奉公が制限され、苦戦に堪える現場の話聞きながら、インターネット等の新たな道具を使って出来ることを模索しましたが、高祖ご降誕八百年の大事なご奉公の促進を担当しながら、弘通の成果は低迷したままです。大きな機会をいただきながらも、罪障の深さと未熟さを感じた 3 年間でした。

今年 3 月の宗務総長の選挙で、今秋の新体制のスタートが決まったとき、私がこの秋以降にどんな動きをすべきかを、いろんな御導師方と相談しました。その中で御老師が「宗門も大事だが、いま松風寺のことをお前がやらねば大変なことになる」と言われた言葉を受けて、平成 18 年から 15 年に亘った宗門への出仕を一旦離れることにしました。ちょうど門祖会の将引結果があまりに酷く、一年以上続いたコロナのダメージの大きさを知ったこともありました。

4 月から御講参詣のないご信者宅を中心に、空いた時間を使った巡回を始めました。そもそも空き時間はほぼない日常ですが、ひとまず自分の受持ちの組長さんに声をかけて毎月 20～30 軒、足を運びました。訪ねたい家はたくさんありますが、毎月、全部の組に行く時間は取れません。身体が一つしかないもどかしさを感じつつ、まずは動いてみようと思ったご奉公でした。感じたことは……、今月の紙面は字数が尽きてきましたので、来月に記そうと思います。

結局、宗門のご奉公も「すべてなし」とはいかず、四国布教区長と宗会議員等を務めます。が、心機一転で松風寺の発展に尽くします。

(松風寺月報 令和 3 年 10 月号)